## Social Workers



## 子どもの成長や自立を支援し、さらなる夢に向かって

児童養護施設では、家庭での養育が受けられないさまざまな事情を抱える子どもたちを 家庭的な環境で見守り育て、社会的自立を目指して支援します。







### 星野さんのあ

(日によって業務内容は変わります)

社会福祉法人共生会「希望の家」は、国の指針 として進められている家庭的なサポートをする 小規模施設で、男女のユニットが左右の建物で 分かれています。星野さんは女子ユニットで働 いており、月に5日ほど泊り込みがあります。

- 14:00 出勤(引き継ぎなどを行う)
- 14:30 夕食の買い物へ
- 15:00 子どもの宿題を見たりお話をしたりしながら 夕食作り
- 18:00 みんなで夕食
- 19:00 子どもの学習時間(一緒に取り組む)
- 子どもたちとのんびり過ごしながら明日の食 事準備と家事
- 21:00 小学生就寝。中高生と学習、お話、テレビ
- 22:00 中学生就寝
- 23:00 高校生就寝。記録や帳簿をつけるなど事務作業 終わり次第仮眠
- 06:00 起床。お弁当や朝食の準備
- 06:40 子どもたちを起こす。朝食
- 08:00 子どもたち登校。掃除や買い物など
- 15:00 子どもたちが下校。宿題を見たり、公園で一緒 に遊ぶ

成として、自分自

日身が里

親

- 17:00 幼児の入浴介助
- 18:00 記録の入力などが終わり次第退勤

### やさしさと厳しさを交え 信頼関係を築く

のは児童指導員の星野有希絵 さんです。 レゼントしてくれたんですよ」 に子どもたちがサプライズでプ 明るい表情で出迎えてくれた 。 ほら見てください。 母の日

ニケーションが取れない子もい 待です。 学習のサポートをしています。 から高2までの女子8人の担当 社会福祉法人共生会「希望 ることもあります。 都葛飾区にある児童養護施設の 事 星野さんが勤めるのは、 - 施設に来る理由の多くが虐 ひどい言葉を投げつけられ 食事や掃除、家計の管理 の企画など、 星野さんは幼稚園の年中 そのためうまくコミュ 生活全般 本心ではな 東京

いと頭で理解しつつも最初は

相童

授

カードは、親の虐待などで入所 て作ってくれたものです。 した児童が感謝の気持ちをこめ 見せてくれた手作り

調査して現地の厳しい現実を知 リートチルドレンの現状などを 護施設を訪れたことでした。 保健福祉) でモンゴルの児童養 本社会事業大学の授業 (海 .関心を抱いたきっかけ 「合計6回も訪問し、 野さんが児童養護の問 は、

して励まし続けました」 福祉 帰国後もメールでやり取り 援 業では、 助 に論などを学び、3年の 実習では国内の児童 援助技術 論 や児

> どういう意味があるのか、 あります。この発言が子どもに

どう

惑しました.

の親のように鬱陶しがられても れば、やさしさだけでなく、実 いいます。子どもの将来を考え すことで気持ちを整理させたと 築かねばなりません。そこが難 正しい道を説き、 い、と星野さんは実感します そんなときは先輩や仲間 信頼関係を と話

## 実習で目覚めた児童 **、習で目覚めた児童養護** 分や国内の施設を訪問

スト 外 日題

す。それでも少しでも彼らの成い』と自分に言い聞かせていま くれるかを考えました」 長や自立に関わることができれ すれば前向きな気持ちになって 「私は『人はすぐに変わら な

ばうれしいです」 は、「ソーシャルワーカーの そして星野さんの将 来の 集 大 夢

きなやりがいにつながって あるそう。それがこの仕事の大 れると、思わず感極まることも になることです」 ありがとう」と言葉をかけ 何かの節目で子どもたちか

ラブを薦められ、2年そこで働 護施設でボランティアを経験 きたそうです。 できないのか」との思いが沸いて てくるようになったといいます。 たいのか」が、だんだんと見え ているうちに、「自分が何をやり 自立支援施設で実 子どもが非行に走る前に何 希望の家」に入職しました。 、生会を訪問、 就職活動では、 子どもの成長や自立を支援 家庭的な養護をめざす そして大規模養 木根川学童 先生の紹介で

さらなる夢に向かって

たと星野さんは振り返ります。

「子どもにはそれぞれ特性

働き始めは、

毎日が必死だつ

社会福祉学部児童福祉学科 1991年3月卒業

### 地域との連携を深め、社会的孤立を防ぎ、 子ども、親、職員が笑顔で過ごせるように

### がわ てつ 横川 **PROFILE**

さん

麦の穂乳幼児ホーム「かがやき」 施設長

1968年 岐阜県出身

1991年 社会福祉学部児童福祉学科卒業

社会福祉法人カトリック名古屋教区報恩会 児童養護施設「麦の穂学園」に入職

2008年より現職

をためらうようになりました。 言えず、それから施設に行くの

泣きながら訴える友人に何も

50 周年記念誌 50周年 記念誌

▶児童養護施設「麦の穂学園」

▶麦の穂乳幼児ホーム「かがやき」



護施設

「麦の穂学園」。

横川

岐阜県中津川市にある児童

立場と入所児童との狭間で 施設長の息子としての

話に火がつくと、みんな

さんは、

同施設の園長の息子と

して生まれ育ちました。

施設の

○横川 哲さんのあゆみ

1991年 日本社会事業大学 児童福祉学科卒業

社会福祉法人カトリック名古屋教区報恩会

児童養護施設「麦の穂学園」に児童指導員として入職

1999年 子ども家庭支援センター「麦の穂」ソーシャルワー

カーとして勤務

麦の穂乳幼児ホーム「かがやき」副院長 2001年

2008年 麦の穂乳幼児ホーム「かがやき」施設長

現在に至る

社会活動

全国乳児福祉協議会 制度対策研究委員 2005年~ 2008年 「子どもの育みの本質と実践」調査研究委員 2011年~ 全国乳児福祉協議会 制度対策研究委員長 2011年・2012年 乳児院の将来ビジョン検討委員会委員 施設の小規模化及び家庭的養護推進ワ 2012年 ンググループメンバ・

地域活動

1999年~ 中津川市消防団 坂本分団所属

中津川市要保護児童·DV防止対策地域協 2005年~

議会メンバー

恵那市要保護児童・DV防止対策地域協議

なり、 て猛勉強をはじめました。 社会事業大学への進学を目指し 識を持つようになりました」 養護施設には何が必要か問題 緒に育ってきた児童が突然亡く に出る子がほとんど。ある日、 もは、高校へは進学せず、社会 した。一方、当時の施設の子ど 「この出来事をきっかけに、児童 そして父の母校でもある日本 ショックを受けました。 意

社大での先輩や〇Bとの

の入所児童とのけんかでした。

お前は俺たちと違う。

両親も

の立場や気持ちは違ったのです\_ ろが自分の状況と、入所児童 がたくさんいる感じです。とこ

それを知ったのが、中1の時

かわいがってもらったそうです。 指導員や児童からは、ずいぶん

「私からすれば、兄さん姉さん

は慣れていたはずですが、個性 が強く意識の高い先輩に囲まれ、 子寮での生活です。 圧倒されてしまったのです。 集団生活に

研鑽を積む 入学して、まず驚いたのが男 討論や先生からの指導で

学園に遊びに来るな、と言われ

いる。園長の子どもだからって

高校時代はサッカーに夢中で に来た、一体何がしたいんだ、 る人たちなので迫力も違います。 を出しました。実践で働いてい と考えていたことを言葉で伝え と問われる。それまでぼんやり が熱くなる。君は何をしに社大 なければならなくなりました」 男子寮には〇Bたちもよく顔

けました。その先生は父の恩師 新入生を奮い立たせました。 人者といわれる先生に影響を受 授業では児童福祉研究の 福祉を目指す横川さんたち 〇Bから聞かされる現場の

話

身を見つめ直しました」 設長の息子にしては非常に残念 ことしか言えないのか。あの施 でもありました。 だ』と1刀両断。 初めて自分自 ゼミで発表すると『君はそんな

期治療施設、保育所、老人施 自閉症児施設、情緒障害児短 福祉施設の現場を訪問 ど、学生時代に20施設以上の い」というアドバイスを受け、 その後、「いろんな現場を見な 児童養護施設、乳児院な 場 今実

りました。 手伝ってみないか」との連絡があ は東京の児童養護施設で働こう 実家のベテラン指導員が亡くな と考えていました。その矢先、 の任用資格を取得し、 社会福祉主事、児童福祉 父親から「数年でもい 卒業後

の自分の支えになっています」 習や施設見学ができたのは、 アルバイトをしながら現

2007年~

# 戻り子どもたちの意欲を故郷の児童養護施設に

模索していました. の自立に向けて何をやるべきか を思い知らされました。子ども が、子どもたちの『意欲のなさ』 いた時は気づかなかったのです 設に就職して、児童指導員とし て本格的に働きはじめました。 東京から岐阜に戻った横川 「幼少の頃、友だちと遊んで 自分が育った児童養護施

ルなどで勝ち進むためのスポ 導を行い、サッカーやソフトボー 業に取り残されないよう学習指 験が必要だと考えました。授 信をつけさせるために、成功体 、指導を行ったのです。 横川さんは、子どもたちに自

優勝するようになりました。 学力は伸び出し、球技大会でも だ』と思っていたでしょうね」 そんなにやる気になっているん 熱心に取り組んでいるうちに、 「子どもたちは『先生は何を

## 地域との連携をより深める ソーシャルワークの輪を広げ

学童保育、 として働きだすと、母子家庭、 穂」を設立。ソーシャルワーカー には児童養護施設に併設して んどん広がります。 「子ども家庭支援センター 横川さんの活動はそれからど 独居老人などの 1999年 -麦の

ら弱さが表面化します。早めに

かりさせないと、社会へ出てか

根本的な人間の土台をして

構築する方が子どもにも親にも 公的な援助を受けて、そこで再

大人に愛された経験を積めば

がやき」を開園します。

す。 携を深めたことで活動範囲も広す。地元消防団に入団し、連 がりました。 題にも 取 n 組 む ようになり į ま

は、 だということに驚かされました。 独居の認知症の高齢者が出かけ をしていましたが、在宅でもこ 協力したこともあります」 たきり行方不明になったときに んなに困っている家庭が多いん 入所している子どものケアだけ 「それまでは児童養護施設に 消防団の一員として捜索に

乳児院「麦の穂乳幼児ホー えました。そして2001 の前の、乳幼児期から関われな 関わりがある親のことも見聞き 17 していました。それなら児童期 から家庭が崩壊し、 施設でも、ネグレクト(育児放 だと思ったそうです。児童養護 さんはもっと何かができるはず 棄) や薬物依存など、 のだろうかと、 地域の問題を痛感し、 横川さんは考 不適切な 乳幼児期

▲麦の穂乳幼児ホーム「かがやき」

# やりがいであり財産

とを実感できるはずです」

ます。 長として、 院や人員の配置を訴えかけてい 現 祉協議会制度対策研究委員 在、 横 厚生労働省に乳児 川さんは全国 乳

でしまうことがあるのです」 えます。職員も一人で抱え込ん もだけでなく、親や職員にもい 感じるのが、孤立、。これは子ど 「周りを見て大きな問題だと

くれたり、 のは、卒園生が結婚式に呼んで 仕事を続けてきてよかったと思う 続けてほしいと期待しています。 要だと横川さんは訴えます。 立や喜びは、私にとっても財産な に来てくれた時です。 持ってソーシャルワークの仕事を これから福祉をめざす人に 最後に、「ソーシャルワークの 長期間に渡りエネルギーを 子どもを連れて遊び 彼らの白

のです」と語ってくれました。

いいと思うのです。低年齢から 自分を支えてくれる人がいるこ 温かく、安心できる環境で暮らせるために

今回登場した横川さんや星野さんが活動してきた児童養護施設。ここではさまざまな視点から、その内容を紹介します。

### Q1 ▶ 「児童養護施設」とは何をするところですか?

児童養護施設は、予期できない災害や事故、両親の離婚 や病気、死亡など、さまざまな事情により、保護者と一緒 に暮らすことができない子どもが、仲間と共に生活してい く施設です。家族による養育が難しい2歳から18歳くら いまでの子どもたちが、協調性や思いやりの気持ちを育み ながら暮らしています。子どもたちの自立のための相談や 支援もしています。

いように声をかけ合うことが必

る訓練や、

周囲の人が孤立しな

対人関係のストレスに強くな

### **Q2** ▶ 施設ではどのような生活を送っているのですか?

子どもたちはできるだけ家庭に近い雰囲気の中で生活し、 施設から各々の学校に通っています。病気で入院していた 親が退院したり、経済的な問題が解決した場合は、それ ぞれの家庭に戻るケースもあります。

### Q3 ▶ 最近、施設に入ってくる子どもたちの傾向はありますか?

児童養護施設は、以前は「孤児院」と呼ばれることもあり ましたが、現在は孤児は少なくなり、親の養育が難しくなっ たケースがほとんどです。最近では育児放棄をはじめ、家 族による身体的・心理的・性的な虐待が原因で入所して くる子どもが増えています。

### Q4 > 全国の児童養護施設の数と在籍児童数は?

北海道から沖縄まで、全国の児童養護施設の数は585施 設(平成23年12月現在/全国児童養護施設協議会調 べ)。それらの施設でおよそ3万人の子どもたちが暮らし ています (平成23年11月30日現在/厚生労働省「社会 福祉施設等調査」)。施設により規模や運営は異なり、小 規模だと定員6人ほどで、大規模になると100人を超え る施設もあります。

### Q5 ▶ 児童養護施設でのソーシャルワークとは?

入所理由は様々です。虐待を受けたことが多いとはいって も、個々に事情は違います。子どもと家族ごとに、その子 が前向きに生きられるように、毎日を大切にすることと、 これからどうするかをはっきりさせ、本人、家族、関係者 と取り組みます。専任のファミリーソーシャルワーカーもい ますが、子どもに寄り添う児童指導員や保育士の仕事で もあります。

> ソーシャルワーカーは、こういった施設で専門知識を生かして、 誰もがその人らしく暮らせるよう支援しています。